

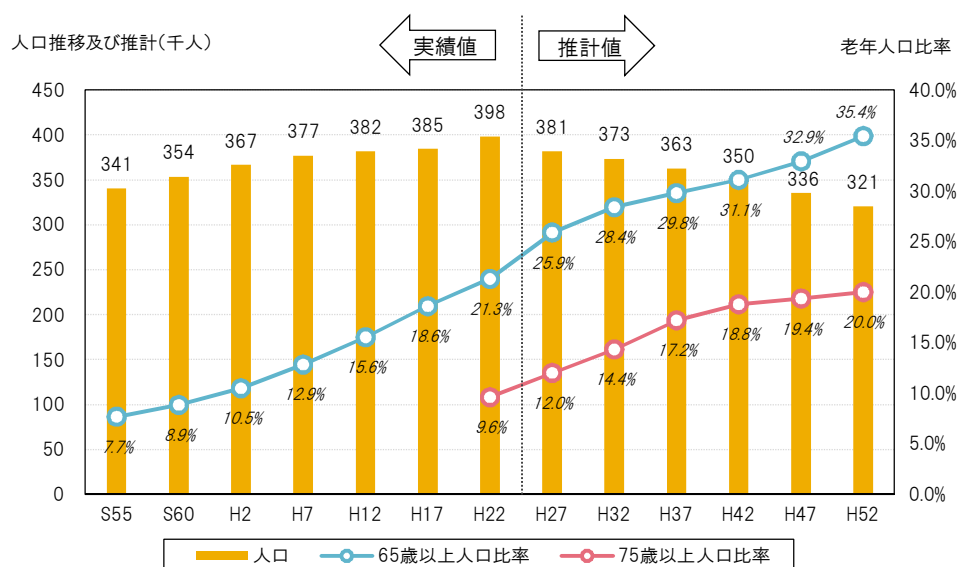
1. 岳南都市圏の現況

1-1. 人口動態

(1) 人口の推移・予測

岳南都市圏では、平成 22 年（2010 年）までは人口が増加傾向であるが、平成 27 年（2015 年）以降は減少し、平成 52 年（2040 年）には昭和 55 年（1980 年）以前の水準まで低下することが予測されている。

また、高齢化率は平成 22 年の 21.3%が平成 52 年には 35.4%となり、3 人に 1 人が高齢者となる社会が予測される。そのうち 75 歳以上の人口比率は平成 22 年には 9.6%であるが、平成 52 年には 20.0%となることが予測されている。



※H22 以前: 国勢調査
H27 以降: 国立社会保障・人口問題研究所推計値(H25.3 推計)

図 1-1 対象地域の人口推移および推計

(2) 人口の分布

富士市では富士駅及び吉原本町周辺に人口が集積しているほか、東名高速道路北側など広く人口が分布している。また、富士宮市においても北側に人口が広がっている。

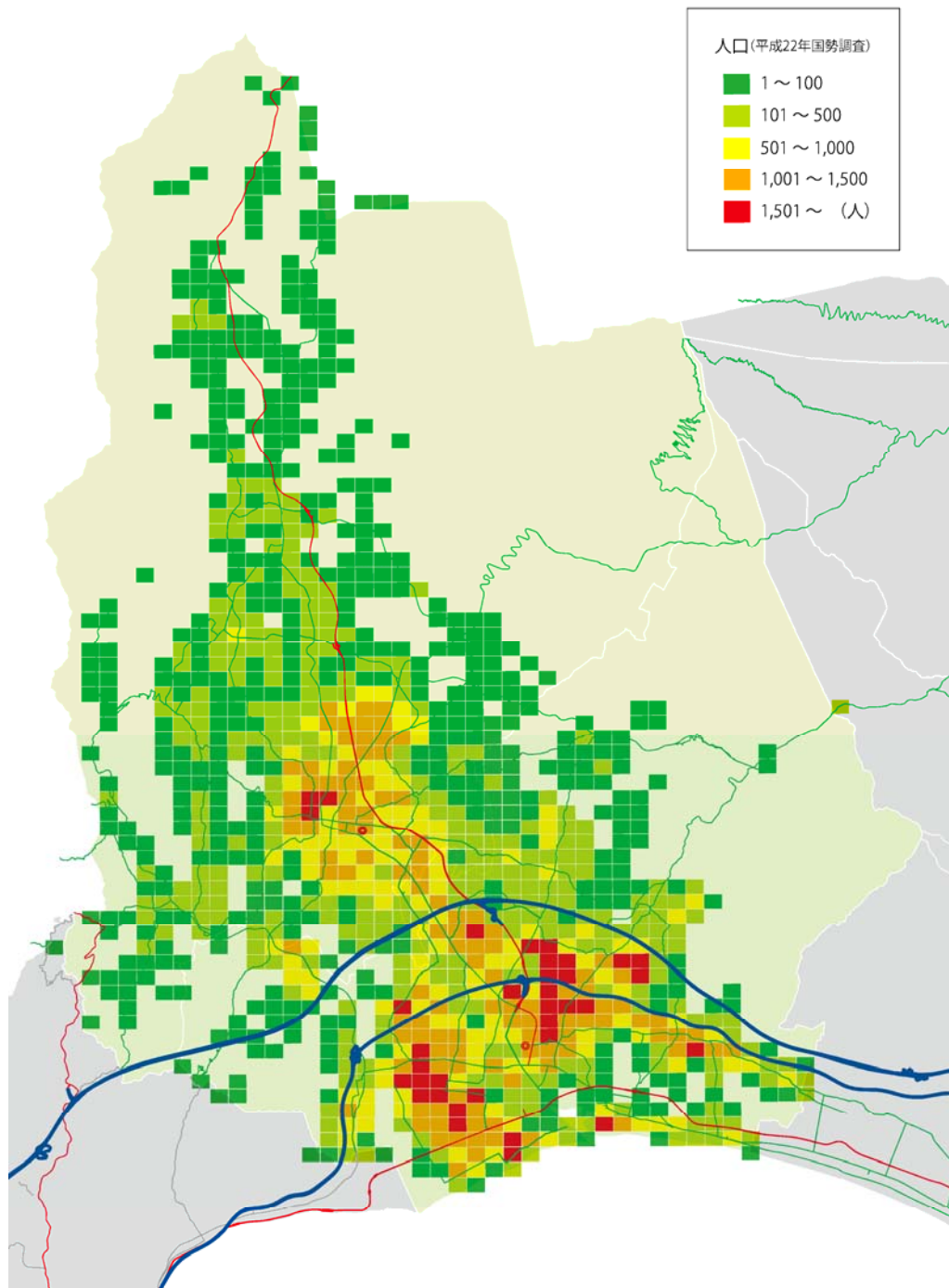


図 1-2 対象地域の人口分布

(3) 人口集中地区の推移

人口集中地区に着目すると、昭和35年からDID面積は約9km²から65km²へと7倍以上に増加している。その一方で人口密度は半減しており、市街地の拡散が進んでいる。また、人口集中地区の人口割合は昭和35年から約2倍であるのに対し、面積割合は5倍以上に増加している。

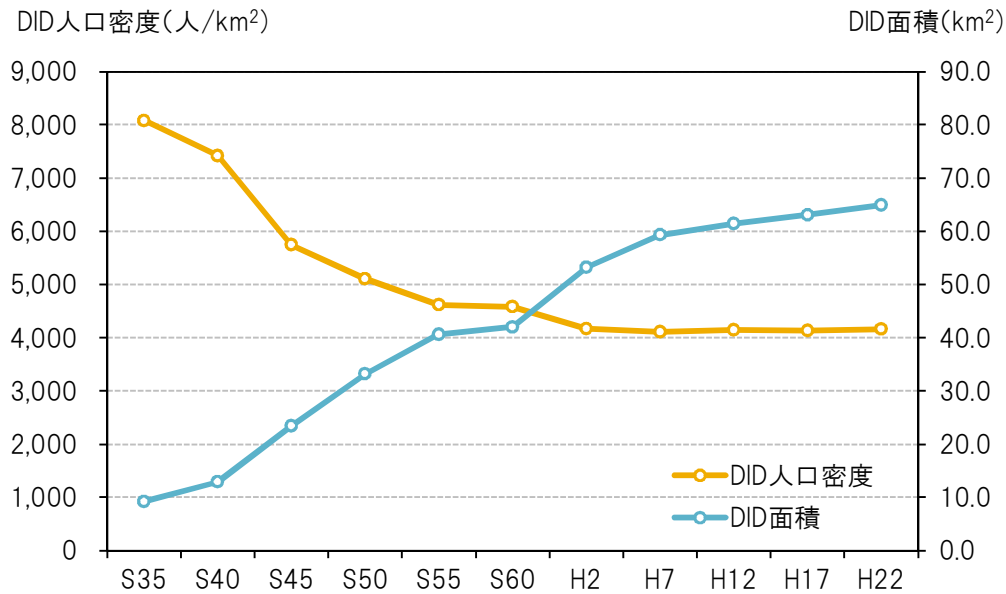


図 1-3 DID人口密度及び面積の推移

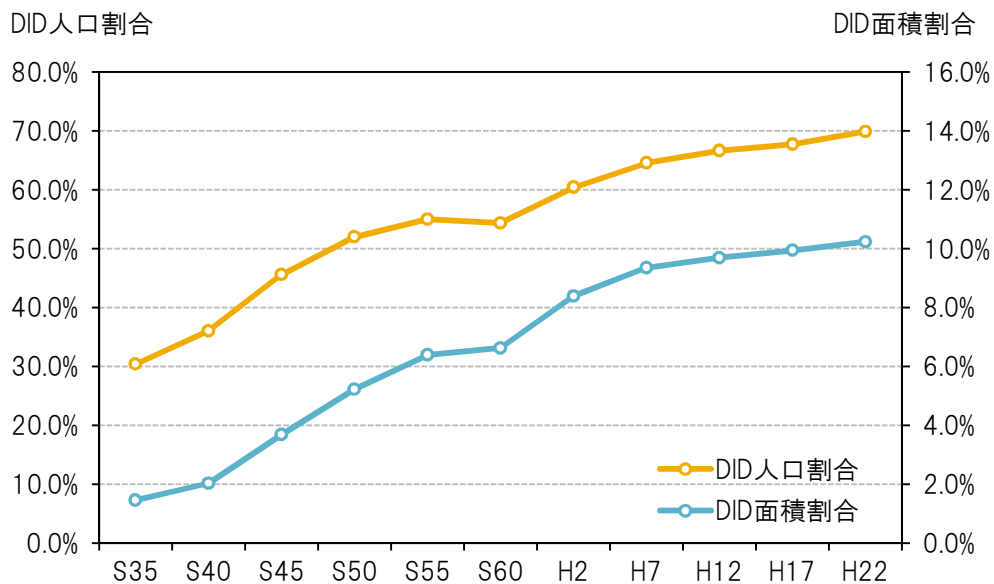


図 1-4 DID人口割合及び面積割合の推移

昭和 35 年には中心市街地の一部が指定されていたのに対し、昭和 55 年時においては、富士市の沿岸部や富士市・富士宮市をつなぐ国道 139 号沿線が新たに指定されている。平成 2 年以降は既存指定区域から道路網に沿って枝葉のように拡大している。

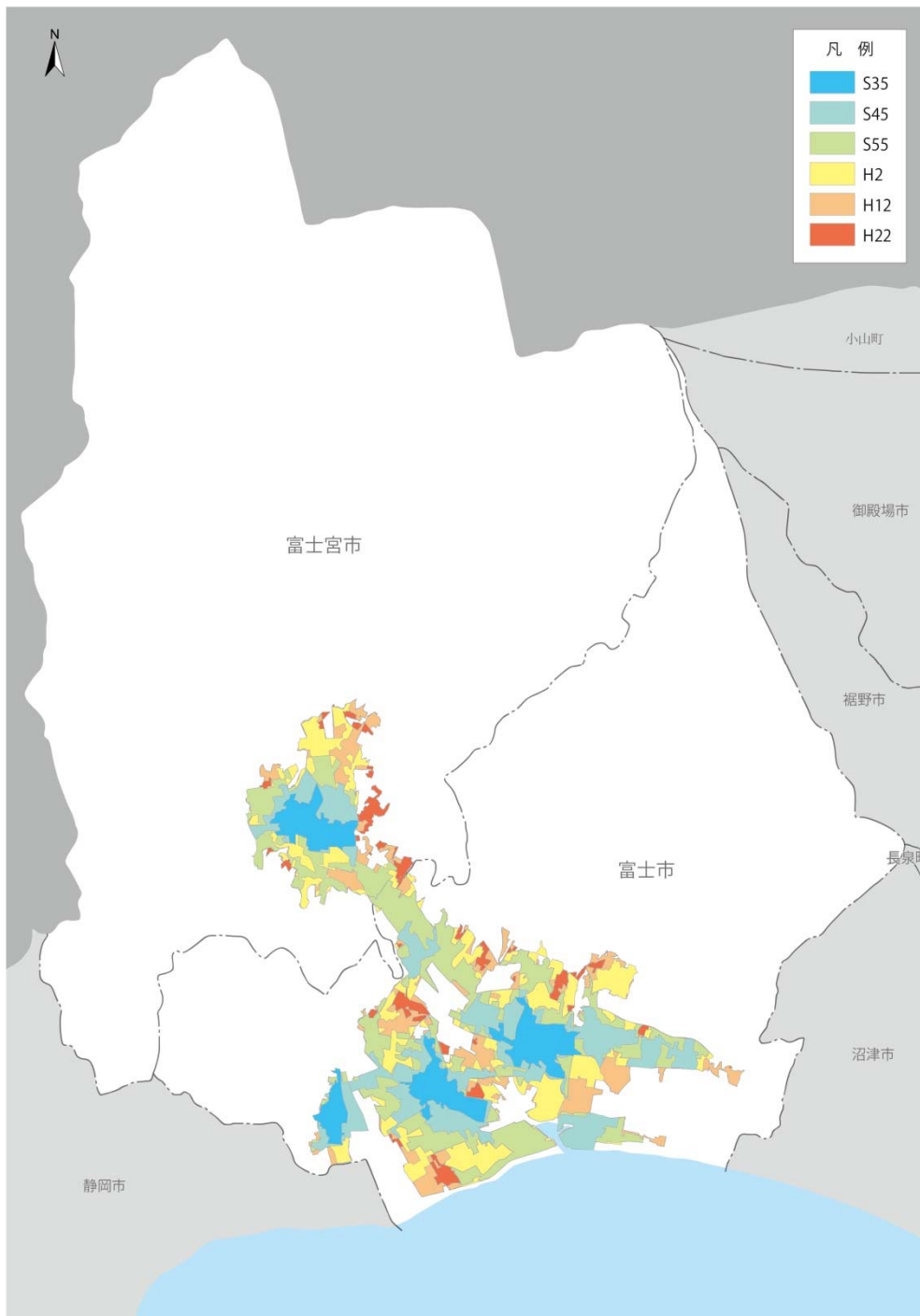


図 1-5 人口集中地区の推移